



研究者 熊谷 光 (大町市立大町西小学校)

共同研究者 岩川直樹 (埼玉大学 教授)

テーマ

「協働を軸とした、『やってみたい』から始まる合科的な膨らむ学び」

『やってみたい』を本物にしていくために

【作ってみたい (J児に寄せて)】

子どもたちは「森で家を作りたい」という願いをもちました。しかし、木材が高価なことを知り、J児は募金を試み、地域の方に積極的に声をかけます。ところが、家づくりに向けた具体的な活動が見つからず滞っているように感じました。

【岩川先生からの助言】

「まだ『やりたいこと』が本物になっていない」「子どもたち自身が人に出会い、文化に出会うこと」

【材にかかわる人探し】

担任は、一緒に活動してくれる地域の方を校内の先生方に相談しながら調べ、「山の子村」「エネルギーを考える会」という2つの団体にたどり着きました。その方々とのかかわりの中で、その道で生きている人に出会う魅力を担任自身が感じることができました。

【「山の子村」での「木」との出会い (J児によせて)】

蒔き割り体験で「上から振り落とせてるね」と、ボランティアの方に褒めてもらったJ児は、嬉しくなって懸命にハンマーを振っていました。しかし、木はかなり硬く、割れないまま交代。次の児童が何回か挑戦すると木は割れました。周囲に混ざり、J児も拍手を送っていましたが、相当悔しかったのでしょう。担任のすぐ後ろで、「俺、もう一回やりたい」と呟き、周囲が疲れてきた頃、2度目の挑戦をしました。「今度は5回で割ろう」と声をかけられ、チャレンジを始めて8回目。薪はついに割れ、満面の笑みで「きもちー！」と叫びました。「生」の木に触れたJ児は、友だちの「木が好きになった」「木の匂いを嗅いでいたい」という声に共感しました。そして、J児は「諦めずに木材を使いたい」と願いを確かにしました。そんなJ児の顔は、いつになく真剣で、願いの強さを感じることができました。

【授業の見どころ】

さらに木を使った具体的な活動を繰り返す中で子どもたちの「やってみたい」が本物に近づいているのか、子どもの具体的な姿や捉えを先生方に観ていただきたいです。



共同研究者 岩川先生から

「協働的」な学びが大切にされている。しかし、その「協働」のなかに教師自身がどれだけいるか。

「活動的」な学びが大切にされている、しかし、その「活動」は現実の社会の生きた営みとどれだけつながっているのか。人間の温度のある学びを織りなすために、学校や教師にいま求められるものはなになのかを、共に探究したい。

～日程～

- | | |
|---------|-------------|
| ① 開会式 | 13:00～13:10 |
| ② 研究発表 | 13:10～13:25 |
| ③ 研究授業 | 13:35～14:20 |
| ④ 授業研究会 | 14:35～15:30 |
| ⑤ 講演会 | 15:35～16:35 |
| ⑥ 閉会式 | 16:35～16:45 |